

長野陸協 会報

平成26年10月31日
第152号

発行所 (一財)長野陸上競技協会
発行人 細田 完二
編集人 青山陸生・水谷 範久
印刷所 (株)プラルト

URL <http://nagano-rk.com/>
E-mail info07@nagano-rk.com

第67回長野県陸上競技選手権大会

8月30日・9月1日の両日、松本平広域公園陸上競技場において、第67回長野県陸上競技選手権大会が開催されました。2014年の長野県チャンピオンを決める大会です。

本年度より記録ランキングによる出場制限を厳格に行い、選手にとっては狭き門となりました。また、大会運営時間の大幅な短縮となり、名実ともに長野県のチャンピオンを決めるにふさわしい大会となりました。



100m・200m優勝のライフメッセージ岩田君(写真中央 9025番)200mは7連覇の偉業を達成

目次

- 1 第67回長野県陸上競技選手権大会……………表紙
- 2 平成26年度 第30回全国小学生陸上競技交流大会参加報告……………①
- 3 日本陸連JTO研修会報告 JTOに任命されて……………②
- 4 平成28年度全国中学校陸上競技長野県大会開催に向けて……………③～⑤
- 5 平成26年度主要競技会記録一覧……………⑥～⑦

平成26年度 第30回全国小学生陸上競技交流大会参加報告

普及強化委員会 委員長 玉城良二 普及部長 橘 麗仁

・期日：平成26年8月22日(金)～23日(土) ・場所：神奈川・日産スタジアム

種目名	氏名	所属	記録	順位	指導者
6年男子100m	小松 弘紀	野沢小学校	13'25 (+0.7)	予5位	荻原 忍
6年女子100m	宮尾穂乃香	穂高北小学校	13'86 (+0.2) 14'03 (-1.0)	予6位 準7位	富田 寛
5年男子100m	柳澤 大翔	穂高西 AC (穂高西小学校)	14'01 (+0.8)	予6位	朝倉 栄
5年女子100m	内藤 理木	長野市陸上教室 (湯谷小学校)	14'54 (-0.6)	予6位	芳川 千恵
男子80mH	大森 才稀	伊那北小学校	13'34 (+0.7)	予4位	小牧 美穂
女子80mH	深澤あまね	旭町小学校	16'31 (+2.0)	予8位 (転倒)	内川理津男
男子走幅跳	野沢 佑太	長野市陸上教室 (篠ノ井西小学校)	4m74 (-1.7)	決9位	市川 武
女子走幅跳	宮澤 香音	松川陸上クラブ (高森南小学校)	4m33 (-0.5)	決13位	関 博文
男子走高跳	黒田 海斗	筑摩小学校	1m25	決28位	松村 大
女子走高跳	小川さくら	永明小学校	1m20	決31位	田村 恵介
男子ソフトボール投	関川 峻司	本城小学校	72m89	決5位	西沢 克弥
女子ソフトボール投	池上 実結	手良小学校	55m00	決17位	伊藤 幸枝
男子400mR	丸山 直樹 丸山 拓海 橋本 涼 白澤 稜馬	豊科北 AC (豊科北小学校)	52'83 53'05	予3位 準7位	一ノ瀬翔太
友好100m	畔田 隼	同上	16'08 (+1.2)	組8位	一ノ瀬翔太
女子400mR	佐々木美羽 百瀬 梨桜 北沢 葉 伏見 怜奈	三郷 AC (三郷小学校)	54'96 54'87	予3位 準4位	滝沢 翔太
友好100m	柳澤 結月	同上	15'34 (-0.6)	組6位	滝沢 翔太

大会当日は、時折雨も降りましたが、この時期の横浜とは思えない涼しいコンディションの中で、長野県選手団22名は、全力で競技することができました。

男子ソフトボール投げの関川峻司君(本城小学校)が、自己記録を大幅に更新する大きな投てきを見せ、見事5位入賞を果たしました。2年連続出場となった野沢佑太君(長野市陸上教室)も、男子走り幅跳びでベスト8へあと一歩まで迫り、6年女子100mの宮尾穂乃香さん、男女リレーの豊科北ACと三郷ACは、それぞれ自己新・チーム新記録をマークし、準決勝進出

を果たすなど健闘が光りました。

十分に実力を発揮できず悔しい思いをした選手もいたと思いますが、長野県選手団の仲間をはじめ全国各地からの参加者と交流し競い合った経験は、一人一人の選手の皆さんにとって、大きな財産となったはずです。この素晴らしい経験を、これからの競技・スポーツ・学校生活に生かして行ってほしいと思います。

全国大会参加にあたり、ご指導・ご協力いただいた各チームの指導者・保護者の皆様、長野陸協の関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

JTOに任命されて



競技運営委員会審判部 青柳 智之

藤森茂幸競技運営委員長と東海陸協の推薦により、JTO養成セミナー（第4期）を受講する機会をいただき、認定試験（規則・運営方法に関する論述試験 ならびに 問題解決方法に関する論述試験）に合格し、本年度よりJTOとして任命されました。まだまだ経験も浅く未熟な私にとって、大変荷の重い役ではありますが、先輩方から色々と教わりながら務めていきたいと思えます。宜しくお願いいたします。

さて、現在の競技会は一昔前に比べ、だいぶ雰囲気も変わってきています。“イベントプレゼンテーション”という言葉もここ数年の間に出てきました。『競技者・審判・観客が一体となった“魅せる競技会”』の演出の事で、アナウンス・BGM・大型映像を工夫したり、競技場所をすっきり見やすくするために審判員や補助員を最小限にしたりすることが考えられます。長野陸協として、今年度は競技進行表に基づく競技会運営をスタートし、ディレクター制も採用しました。電光掲示板（大型表示板）を使用する大会は、十数年前から日本各地ではこのような競技運営をしており、だいぶ遅れを取った形になっていました。しかし初年度とは思えぬほどスムーズな運営ができるようになり、競技進行の遅れも激減し定刻でのスタートが当たり前になっています。これもディレクター制にご理解いただき、関係部署で連携を取っていただいた成果です（トランシーバーの活用）。さらに、BGMの活用においてもアナウンスチームに努力していただき、魅せる競技会に近づきつつあると考えています。

本年度は山梨インターハイにJTOとして派遣されてきました。日本陸連競技運営委員長はじめ10人以上の陸連派遣役員が大会運営に関わりましたが、審判員の立ち位置から用器具の置き方（当該競技に不要な器具は撤収）、写真判定の確定時間、砂場を均す時間、旗振りのタイミングまで、細かい指示が出ておりました。いずれも“魅せる競技会”のためのものであり、最終的には競技者にとっても競技しやすいものでした。2年後に全日本中学校陸上競技選手権大会（全中）を迎えるわけですが、さらに長野陸協の大会運営能力が向上（＝競技者にとって競技しやすい空間）できるよう、よいものを作っていけたらと思います。私も微力ながら、日本陸連や全国各地の情報をお伝えしていこうと思えます。

「陸上競技はおもしろい！ 一流選手はすごい！ また見に来たい！」そんな大会を創っていきましょう。

JTOとは……

Japan Technical Officials（日本陸連技術委員）の略称。国際陸連（IAAF）のITO（International Technical Officials）に準じた任務を行うため、2006年から日本陸連主催競技会に派遣されている。第4期のJTO認定試験合格率は45%。現在43名のJTOが陸連主催・共催・後援の各種競技会の運営支援を行っている。なお、青柳さんは最年少のJTOである。

全国中学校陸上競技長野県大会開催に向けて

長野県中学校体育連盟陸上競技専門委員長 酒井 剛（箕輪町立箕輪中学校）

平成28年度全国中学校体育大会第43回全日本中学校陸上競技選手権大会（以下：本大会）開催の正式決定から約1年半が経過すると同時に、開催まで2年を切りました。これまで公の場ではあまり言葉にできませんでしたが、本大会の開催決定に際し並々ならぬご理解とお力添えを賜りました日本陸連、日本中体連、北信越中体連、そして何より日々お世話になっている長野陸上競技協会の皆様方には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

これまで多くの諸先輩方も熱望され開催に期待を寄せながらも、なかなかつかめなかった本大会が、ようやく本県で初めて開催されることになりました。今回その記念すべき本大会の運営に携わるチャンスをいただいたことは、私の陸上競技人生において大変光栄な出来事であることには間違いありませんが、それと同時に、事の重大さや責任の大きさも日々感じずにはられません。

前委員長長田貴先生より、委員長引き継ぎと全中開催についての打診をいただいたのが、平成24年度「千葉全中」の頃でした。同大会を全中開催という視点で見させていただいてから、本年度「香川全中」まで既に2年が経過してしまいました。今後は、ほぼそれと同じ時間で本大会がやってきます。

本稿では、昨年度「愛知全中」及び本年度「香川全中」を視察させていただいた報告を盛り込みながら、「会場・施設」「競技運営」「選手強化」の視点から長野全中開催に向けた展望をお示しできればと思います。

1 会場・施設

近年、全中といえは「愛知全中（H25）：名古屋市瑞穂公園陸上競技場」「香川全中（H26）：香川県立丸亀競技場」「北海道全中（H27）：札幌市厚別公園競技場」「新潟北信越（H26）：デンカビッグスワンスタジアム」などに見られるように、Jリーグの



ホームスタジアムになっている大規模総合競技場を使用して開催することが多くなってきています。これらの競技場には、数万人が収容可能な座席や選手の導線として利用できるダッグアウト（スタンド下通路）、競技結果やリプレイ映像が瞬時に映し出せる大型スクリーンやコンサートも開催可能な音響設備等が設置されており、選手はもちろん観客にとっても感動と興奮を提供できる環境が整っています。

皆様もご承知の通り、2016全中長野大会は「松本平広域公園陸上競技場」で実施することが決定しています。競技場そのものの施設からいえば、日本選手権を開催している長野市宮陸上競技場も申し分ないのですが、選手団待機場所・補助競技場・駐車スペースなどトータルで考えると、松本平で実施することが妥当であると判断いたしました。が、皆様もご存じの通り、県内の競技場にはトラックを1周回うスタンドはありませんし、電光掲示板も決して十分な機能を果たしているとは言えません。前後数年間の会場と比べればやや見劣りするかもしれません。

現在、これらを充足させるべく、大型映像装置の改修、各種電気機器の購入、現役員室や雨天走路の改築などを盛り込んだ要望について、陸協施設用器具委員会及び情報システム委員会の各担当者にご尽力いただき、管理会社及び松本建設事務所を通じて県へ申請し、予算審議等に入っております。6月には阿部県知事への陳情も行いました。これらが実現すれば競技進行の効率化が図られると共に、演出という観点からも選手を後押しでき、これまでにない好記録誕生につながるかもしれません。

しかしながら、これらが全てそろっていなければ全中が行えないかということ、決してそうではありません。その競技場に見合った規模や方法で最大限努力することで、全国からお越しいただく選手に最高のパフォーマンスをしていただけるものと考えています。また私が調べたところによると、松本平は過去42回（H27年北海道まで含む）の全中の歴史において最高海拔（約650^m）で行われることとなります（これまでの最高海拔は山梨県小瀬スポーツ公園の約250^m）。真夏の全中といえは最大の敵は“暑さ”です。湿度も低く朝晩過ごしやすい信州の自然環境は、決してお金では買うことができない我々の貴重な“武器”になってくれると考えています。

2 競技運営

先日、第98回日本陸上競技選手権大会（混成競技）（以下：日本混成）の日本陸連及び主管陸協反

省会に出席させていただきました。その中で、風間日本陸連事務局局長様より「日本混成における右代選手の得点（日本記録）は、現時点における国際陸連公認ランキング11位に相当しており、国際的に見ても大変価値の高い競技運営であった」というお言葉をいただきました。また、本田日本陸連混成部長様より「回を追う度に選手が競技をやりやすい環境・配慮が随所に見られ、非常に感謝しています」というお言葉もいただきました。

私自身が日本混成に関わらせていただくようになってからは今年で2年目ですが、同競技会が行われるようになってからは、県内における競技運営の質が確実にレベルアップしていると思います。特に、競技場内の選手（サポートスタッフを含む）・審判員（補助員も含む）・観客、そして施設用具や各種機器類、会場を漂う空気までもが一体となって連動している感覚に包まれることが多くなってきました。これを実現させている要因の一つとして、ディレクター制の導入が考えられます。ディレクターが全体を見渡しながらか確に指示することで、全ての部署が円滑につながるようになります。すると、各部署の審判員は安心して自分の役割に集中することができ、ミスなくジャッジメントを行えたり、選手の気持ちの流れを途切れさせることなく試技を行わせたりすることができるのではないかと考えられます。

ただ、ここにたどり着くまでには幾多の困難もあったはずですが、日本混成だけ見てみても、初年度はゲリラ豪雨による競技中断。2年目は写真判定装置配線不具合による競技の遅れ。もう失敗は許されない覚悟で臨んだ今年の大会。「石の上にも三年」という諺があるとおり、納得のできる競技運営ができるようになるまで実に3年間という時間を要しているのです。そういう視点で本大会を考えると、開催まで実は2年を切っていながら余り前進していません。本大会が酷暑下で行われることや、練習日も含めると5日間にわたることなどを考慮した場合、約400名程度の審判員、そしてほぼ同数の生徒役員という体制で臨まなければなりません。また、いくら優れた用器具を導入しても、それを扱う審判員が力不足では、逆に競技進行を遅らせる原因になるかもしれません。

現時点における競技運営上の課題は審判員の確保、特に中体連審判員の養成は急務です。今年、審判資格新規取得希望者は例年になく多いと思われまます。これも、各支部陸協審判部の皆様のご指導の賜と感謝申し上げます。中体連といたしましても、年間を通して審判員資格新規取得のお願いと県レベルや高体連主催大会等への審判員参加を呼びかけて参りました。今年度は恥ずかしながら未だその成果は見られておりませんが、来年度には必ずその成果が現れるものと信じておりますし、そうしなければな

らないと思っております。

今年度の県中学総体では第1回目のプレ大会として、競技会仕様を試行してみました。その中で競技会の流れは概ねイメージできたのではないかと思います。また、招集所配置や衣類運搬、投てきサークルなども実際に行ったり使ってみたりしたことで、初めてわかる問題点を見つけ出すことにつながり、次回プレ大会に向けて改善策を立てやすくなったと思います。今後の課題としては、競技場内における選手の誘導やコーチングエリアへの誘導、登録商標の取り扱い、トラブル発生時の連絡指揮系統の確立などがあげられると思います。また本大会はNHKによりテレビ中継されるため、競技中の審判員の行動一つとっても厳しい眼差しが注がれます。本章冒頭でも述べたとおり、日本混成を通して審判員技術は飛躍的に向上していますが、「これで良い」ではなく、「もっとできる」という意識で本大会を迎えるべく、競技運営の資質向上を目指したいと考えております。

選手と接触したり直感的にジャッジメントを行わなければならない部署や、扱いに特別な技能を要する器機類の操作などにおいては、経験がものを言います。また、新たな器機類の導入により実技講習会等も必要になると考えられます。今後は規定の講習会以外にも審判講習会などを行いながら、審判員技術向上を図って参りたいと思います。その際、十分にご経験とノウハウをお持ちの陸協審判員の皆様には、ご指導をお願いすることがあるかと思ひます。今後とも中体連審判員の育成にお力添えを賜りますよう、よろしく御願ひ申し上げます。加えて、例年に比べ審判員数を大幅に増員しなければならないため、限られた予算では陸協規定の日当をお渡しすることが難しく、やや減額して対応させていただいている失礼に対し、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

3 選手強化

2020年東京オリンピック開催が決定した際、各競技団体がまず考えたことは『選手強化』であると思ひます。開催国には無条件で出場枠が与えられ、全ての競技において参加することが可能となります。そして地元の選手が活躍することで、その競技の知



名度がアップしたり、更に人気が高まったりすることになり、将来的な普及や強化が図られると考えられます。選手強化は、ある意味開催地の宿命と考えなければなりません。

全中においても『開催地枠』が与えられ、標準記録突破者以外にプラスして1名（リレーの場合は合計2チーム）がエントリーできることになっており、ここ2年の結果を見ても、H25愛知全中では愛知県選手団が10種目入賞、H26香川全中では香川県選手団が4種目（5名）入賞（内1種目優勝）と、開催地として堂々たる成果を残しています。本県選手団としても愛知では優勝を含む4種目、香川でも男子100m、女子リレー過去最高順位を含む4種目入賞と健闘は見せて参りました。しかし開催地となるとこれ以上の成果が求められることは必死で、最低1種目以上の優勝を含め、入賞数をここ2年間の二倍近くには伸ばさなければと考えております。

ここで今年の香川全中における驚くべき結果があります。それは来年度の開催地である北海道選手団の活躍です。5種目（6名）において入賞（内1種目で優勝）を果たす中、女子100m、200mで2年生ながら両種目とも3位に入賞している選手がいるのです。本県選手団の中でいずれも今年2位になった選手たちは、昨年の愛知全中出場を果たしながらも、結果的には悔しい思いをしてきました。その経験があったからこそ、今年県内最高順位という快挙を成し遂げられたのではないかと推察します。つまり、全国の舞台で大きな成果を出すためには、前年からその舞台に立つあるいはそれに近い活躍をすることが重要であることがわかります。本大会で大活躍するためには、来年の北海道全中に、より多くの選手団を送り込み、「長野ここにあり」をアピールして行くことが求められるのです。

昨シーズン中は様々な競技会にお邪魔し、特に小学生を対象として本大会開催決定のPRをして参りました。また、現中学2・3年生には「君たちの活躍が全中長野大会で活躍する世代を刺激するんだ」と訴え続けてきました。これらが功を奏したかどうか客観的な検証はできませんが、今年中学1年生世代の中には「全中長野大会での活躍」を具体的な目標にしている選手が多いように感じます。また、県総体初日に行った『全中開催決定記念セレモニー』は、全学年で800名余の参加をいただき大いに盛り上がりました。シーズン当初は突出した選手も余り見られない現状でしたが、シーズン後半にきて従来の大会記録を更新したり将来性を感じさせる記録で上位入賞を果たす1年生も見られるようになってきました。

現在、陸協普及強化委員会ともタイアップして、強化練習会及び普及練習会などを実施しております。新たな取り組みとして、指定選手による県外遠征や全国規模競技会視察なども行い、全国レベル

を肌で感じさせる事業も行って参ります。また長野県内には大変優秀な指導者が多く、熱心に普及強化活動をしてくださっています。今シーズン活躍している選手の多くが、地域のクラブチームなどに所属し、継続的に指導を仰いでいます。これらの完全な一本化は困難であると思われませんが、県内で行われている普及強化活動をできるだけ一つの系統にまとめ、TEAM NAGANOとして全体を強化していくための指導者講習会なども展開していく予定です。これらの取り組みには当然莫大な費用がかかりますが、その一部を陸協に支援していただいています。中体連としては財源が大変厳しい中、このようなご理解をいただけることに心より感謝申し上げますと共に、それに応える活躍で恩返しせねばなりません。本大会で活躍した地元選手が、4年後の東京オリンピックや、そのまた4年後のオリンピックなどで活躍できる日を夢見て、積極的に強化活動を進めて参ります。

昨年、北信越ブロックの会議で、他県関係者から「本当はうち（の県）も全中やりたかったんですよ。酒井さんがうらやましいです。きっと宝くじに当たるよりも低い確率で全中の運営ができるんですよ」というお言葉をいただきました。また、県内関係者の皆様からも機会あるごとに「全中大変だね」「しっかりやれよ」と温かなお言葉をいただいております。当然簡単なことではありませんし、その大役を私がやらせていただいて良いものか、未だに迷うこともあります。しかし昨年12月には準備委員会も立ち上がりました。全中に向けた流れは既に上流を通り越し、中流にさしかかっていると言えます。ここからは危険な急流や激流も待ち構えているものと思われれます。

少なくともこの2年あまり全中が脳裏から離れたことは一日もありません。しかしそのような中強く感じているのは、一緒に苦労をともしてくださっている仲間のありがたさです。準備委員会へは大まかなイメージを伝えるだけで、各部署がそれについての細かな計画を立てて形にしてくれますし、陸協関係者の皆様からは、心温まる叱咤激励のお言葉や具体的な解決策をいただくことができます。

本大会に限らず長野県最大の武器は、恵まれた自然環境と人々の温かさだと思います。全国の激戦を勝ち抜いて（標準記録を突破して）戦うためにやってきた選手や、その指導者・ご家族・観客の皆さんを、信州らしいおもてなしでお迎えできるよう、全力で運営にあたらせていただきます。

最後になりますが、長野陸上競技協会の皆様方には、今後とも温かなご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

..... 平成26年度主要競技会記録一覧

第10回長野県市町村対抗小学生駅伝競走大会

平成26年4月29日(月)

【総合成績】

Table with 5 columns: 順位, No., チーム名, 通算記録, 備考. Rows 1-4 showing results for 長野市, 駒ヶ根市, 松本市, 上田市.

Table with 5 columns: 順位, No., チーム名, 通算記録, 備考. Rows 5-8 showing results for 飯田市, 坂城町, 諏訪市, 小諸市.

第24回長野県市町村対抗駅伝競走大会

平成26年4月29日(月)

【総合成績】

Table with 5 columns: 順位, No., チーム名, 通算記録. Rows 1-8 showing results for 長野市, 飯田市, 上田市, 松本市, 茅野市, 東御市, 千曲市, 安曇野市.

【町の部】

Table with 5 columns: 順位, No., チーム名, 通算記録. Rows 1-6 showing results for 信濃町, 富士見町, 松川町, 下諏訪町, 小布施町, 辰野町.

【村の部】

Table with 5 columns: 順位, No., チーム名, 通算記録. Rows 1-6 showing results for 原村, 山形村, 松川村, 木島平村, 高山村, 白馬村.

【区間賞】

Table with 6 columns: 区間, No., 選手名, チーム名, 区間記録, 備考. Rows 1-8 showing individual interval winners.



2年連続17回目の総合優勝を決めた長野市チーム

平成26年度国民体育大会陸上競技大会長野県予選会

平成26年7月12日(土)・13日(日)

男子

Large table with 10 columns: 月/日, 種目, 風速, 氏名/所属, 記録, 氏名/所属, 記録, 氏名/所属, 記録. Rows 1-30 listing various track and field events and their winners.

女子

Table with columns: 月/日, 種目, 風速, 1位 (氏名/所属, 記録), 2位 (氏名/所属, 記録), 3位 (氏名/所属, 記録). Rows include events like 成年女子 100m, 400m, 1500m, 100mH, 5000mW, etc.

第67回長野県陸上競技選手権大会

平成26年8月30日(土)・31日(日)

男子

Table with columns: 月/日, 種目, 風速, 1位 (氏名/所属, 記録), 2位 (氏名/所属, 記録), 3位 (氏名/所属, 記録). Rows include events like 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, etc.

女子

Table with columns: 月/日, 種目, 風速, 1位 (氏名/所属, 記録), 2位 (氏名/所属, 記録), 3位 (氏名/所属, 記録). Rows include events like 100m, 200m, 400m, 800m, 1500m, etc.